

勘定科目表 (工場ノ部)

款 項 目 節 備考

受入基金

受入基金

受入基金

正金

物件代振替

假受金

假受金

假受金

手付金

一時預リ金

假拂金

假拂金

建築未済勘定

何々工場費

事務所費

假拂金

手付金
引當金

俸給

雜給

手當

旅費

備用品費

通信費

雜費

諸建物費

什器器械

什器器械

什器

器械

何々

倉庫品

倉庫品

粘土

石灰

何々

工費

材料費

雜費

石炭

夕張炭

盤城炭

無烟炭

商標紙

何々

ハトロン紙

何々

樽

何々

他店勘定

他店勘定

他店勘定

雜收入

雜收入

雜收入

何々

二百

營業費

工場費

事務所費

不用品賣却代
雜入金

俸給 雜給 手當 旅費 印紙費

製造費

原料品

通信費 文具費 車馬費 備品費 消耗品費 諸稅 雜費 角製工賃 何々 コークス 粘土 石灰

二百一

仕上費
夕張炭
磐城炭
樽代
商標紙
ハトロン紙
何々

運搬費
セメント
何々

修繕費
何々

雜費
何々

何々

金銀

金銀

金銀

一受入基金目ハ本社ヨリ送付シタル資金又ハ振換資金ヲ整理スル科目ナリ

基金ヲ受入タルトキハ金銀出納帳ノ借方摘要欄へ受入基金科目ヲ開キノ下へ基金何某携帶又ハ何々ト認メ現金受ノ欄へソノ金額ヲ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳(受入基金)口坐摘要ノ欄へ基金又ハ何々ト認メ貸方ノ欄へソノ金額ヲ轉記スヘシ

振換基金ヲ受入タルトキハ關係帳簿へ記入シ日記帳ノ借方振換摘要ノ欄へ相手ノ勘定名稱ヲ認メ摘要欄へ(受入基金)科目ヲ開キ其ノ下へ何々ト認メ振換勘定ノ欄へソノ金額ヲ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳(受入金)口坐摘要ノ欄へ何々ト認メ貸方ノ欄へソノ金額ヲ記入スヘシ

基金ヲ本社へ送付スルトキハ金銀出納帳ノ貸方(受入基金)科目ヲ開キノ下へ何

々ト認メ現金拂ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳(受入基金)口坐摘要ノ欄ヘ何々ト認メ借方ノ欄ヘソノ金額ヲ轉記スヘシ

振換基金ヲ本社ヘ送付スルトキノ記入法ハ前項振換基金送付ノ反對ニ付省略ス

一建築未済勘定 ハ工場家屋又ハ本社家屋等總テ建築使用ニシテ未タ建築費總額ノ

知レサルモノヲ整理シ後チ建築落成シ夫々詳價ヲ付シテ家屋科目四振換記入スル

ニ於テ該科目ハ消滅スルモノトス

建築費ヲ仕拂タルトキハ金錢出納帳日記帳ノ貸方摘要欄建築未済勘定科目ヲ開キ

ソノ下ヘ何々ト現金拂ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳(建築

未済勘定)口坐摘要ノ欄ヘ何々ト認メ借方ノ欄ヘソノ金額ヲ轉記スヘシ

建築費ニ屬スル勘定中倉庫品又ハ受入基金等ト振換ノトキハ日記帳ノ借方振換摘

要ノ欄(建築未済勘定トシ摘要欄(相手科目)ヲ開キ其ノ下ヘ何々ト認メ振換勘定

ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ更ラニ振換摘要ノ欄、相手科目ヲ認メ摘要欄(建築未済)

勘定科目何々開キソノ下ヘ何々ト認メ振換勘定ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ次ニ日記

帳ヨリ總勘定元帳相手口坐ヘ轉記シ更ラニ建築未済勘定口坐摘要ノ欄ヘ何々ト認

メ借方ノ欄ヘソノ金額ヲ轉記スヘシ

一什器機械科 ハ前章什器ト同斷

一倉庫品科 ハ製造ノ原料及ヒ製品荷造用品ニ關スル勘定ヲ整理スル科目ナリ

倉庫品ヲ現金買ノトキハ倉庫品元帳、金錢出納帳、日記帳ノ貸方摘要欄「倉庫品」科

目ヲ開キソノ下ヘ何々ト認メ現金拂ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘

定元帳「倉庫品」口坐摘要ノ欄ヘ何々ト認メ借方ノ欄ヘソノ金額ヲ轉記スヘシ

倉庫品ヲ本社振換又ハ掛賣ノトキハ日記帳ノ貸方振換摘要ノ欄ヘ受入基金又ハ他

店勘定トシ摘要欄「倉庫品」科目ヲ開キソノ下ヘ何々ト認メ振換勘定ノ欄ヘ記入シ

次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳「倉庫品」口坐ヘ前項ノ例ニ依テ轉記スヘシ

倉庫品ヲ拂出ノトキハ倉庫品元帳日記帳ノ借方振換摘要ノ欄ヘ製造費トシ摘要欄

「倉庫品」科目ヲ開キソノ下ヘ何々ト認メ振換勘定ノ欄ヘソノ金額ヲ記入シ次ニ日

記帳ヨリ總勘定元帳「倉庫品」口坐摘要ノ欄ヘ何々ト認メ貸方ノ欄ヘソノ金額ヲ轉

記スヘシ

一他店勘定科 ハ前章ニ於テソノ性質ヲ述ヘタルヲ以テ説明ノ必要ヲ見スソノ記入ハ

他店勘定帳其他ハ前同斷ナレハ省略ス

一 雜收入目科ハ前同斷

一 營業費目科ハ工場ニ要スル諸經費ヲ整理スル科目ニシテ營業費内譯帳ニ記入スヘシ

一金銀目科ハ前同斷

第四節 取引例題

營業取引例題ハ本社及工場ノ二種ニ區別シテ掲ケン而シテ本章ニ於ケル例題ヲ抑モ
會社創業中ヨリ工場建築機械購入及ヒ之レカ決算期迄ヲ詳細ニ掲クルトキハ甚タ錯
雜ニ涉ルヲ以テ細密ノコトハ他日ニ譲リ之レカ大要ヲ掲ケン

明治三十一年三月一日

東洋セメント株式會社

一 資本金ハ金拾萬圓ニシテ之ヲ株式ニ分チテ二千株トシ一株ノ金額ヲ金五拾圓トス
(株金) (拂込未済株金)

一本日株主ヨリ第一回拂込金(資本金四分の一)ヲ受取ル(拂込未済株金)

一金五千圓 (四百株分)

一金三千七百五十圓 (三百株分)

大 和 武 士
田 中 田 螺

一金三千二百二十五圓 (二百五十株分)

一金二千五百圓 (二百株分)

一金二千五百圓 (二百株分)

一金二千二百五十圓 (百八十株分)

一金二千二百二十五圓 (百七十株分)

一金千八百七十五圓 (百五十株分)

一金千二百五十圓 (百株分)

一金六百二十五圓 (五十株分)

天 虫 吐 系
中 島 太 助
平 川 源 助
田 村 由 之
椿 木 信 久
中 村 武 助
武 市 一 郎
廣 岡 次 郎

計金二萬五千圓

一金庫壹個代金二百圓 ヲラザース商會へ仕拂フ

(什器)

一卓椅子各拾脚代百二十圓ヲ金杉店へ仕拂フ

(營業費)

一創業費用金百八拾圓ヲ仕拂フ

(創業費)

一日記帳元帳印刷代金二拾圓ヲ日吉印刷所へ仕拂フ

(營業費)

一郵便切手及葉書代四圓ヲ仕拂フ

(營業費)

- 一 大國銀行へ金二萬參千圓ヲ當坐預金トス (當坐預金)
- 一 半紙對五拾帖代金壹圓拾七錢五厘ヲ青木店へ仕拂フ (營業費)
- 一 御筒壹臺代金百拾圓ヲ服部店ヨリ現金ニテ買入ル (工場勘定)
- 一 工場へ基金トシテ金千圓ヲ遞送ス (工場勘定)
- 一 大國銀行ヨリ當預坐金壹千圓ヲ受取ル (當坐預金)
- 一 夕張炭拾萬斤此代四百圓ヲ炭鑛社ヨリ現金ニテ買入ル (工場勘定)
- 一 無煙炭拾萬斤此代六百圓ヲ林店ヨリ掛ニテ買入ル (他店勘定)(工場勘定)
- 一 磐城炭拾貳萬斤此代八百八拾圓ヲ入山社ヨリ掛ニテ買入ル(他店勘定)(工場勘定)
- 一 入山社へ磐城炭代引當トシテ大國銀行當坐小切手ヲ以テ金三千圓ヲ仕拂フ(假拂)
- (當坐預金)
- 一 工場へ第壹號通知書ヲ遞送ス

本日有金九百六拾四圓八十二錢五厘

明治三十一年三月十五日

一 三月十日付第壹號送狀ヲ以テセメント二千樽(此見積原價六千圓)到着ス

(商品) (商品整理勘定)

- 一 商品受拂帳外六冊代五拾八圓ヲ日華堂へ現金ニテ仕拂フ (營業費)
- 一 猛田鯨雄ヨリ株券名義書替料金五圓ヲ受取ル (雜收入)
- 一 新聞代六拾錢ヲ珍聞社へ仕拂フ (營業費)
- 一 調革三拾尺代金五拾圓ヲ棒店ヨリ現金ニテ買入ル (工場勘定)
- 一 東京建築社へセメント二百樽金六圓替此代千二百圓ヲ掛ニテ賣渡ス
- (商品) (賣掛金)
- 一 大國銀行ヨリ當坐預金二千圓ヲ受取ル (當坐預金)
- 一 骸炭拾屯代金貳百五拾圓ヲ今川店ヨリ掛ニテ買入ル (他店勘定) (工場勘定)
- 一 原西店へセメント百樽金六圓二拾錢替此代六百貳拾圓ヲ現金ニテ賣渡ス (商品)
- 一 工場へ基金トシテ金二千圓ヲ遞送ス (工場勘定)
- 一 空樽五千樽金拾錢替此代五百圓ヲ六山店ヨリ現金ニテ買入ル(工場勘定)
- 一 末廣社へセメント千五百樽金六圓替此代九千圓ヲ現金ニテ賣渡ス (商品)
- 一 大國銀行へ金壹萬圓ヲ當坐預金トス (當坐預金)

試算表 明治三十一年三月十五日 (掛算計)

借方	科目	貸方
	株金	100.000.000
75.000.000	株金未済	
200.000	什器	
3.000.000	拂金	
26.600.000	當座預金	1.730.000
	他店勘	
5.790.000.000	工場勘	4.820.000
	商品整理	6.000.000
1.200.000	商賣掛	
	雜収業	5.000
180.000	創業	
1.133.775	營金	
151.225		
112.555.000		112.555.000

一 本月事務員俸給金百八十圓ヲ仕拂フ
 (營業費)
 一 迅走舎へ本月分乗車賃金五拾圓ヲ仕拂フ
 (營業費)
 一 工場へ第二號通知書ヲ遞送ス
 本日有金百五拾壹圓廿二錢五厘
 以上列舉シタル諸勘定ノ結果ヲ見シカ爲メ總勘定元帳各自ノ勘定口坐ニ就井テ試算表ヲ調製シタルハ左ノ如シ而シテ該取引ヲ以テ半ケ年即チ年度總決算ヲ施行スルモノト假定シテ工場ノ計算報告及ヒ棚却商品ノ報告ヲ待ツ(決算法則參照)

明治三十一年三月十日

東洋セメント株式會社工場

一本日本社ヨリ三月一日付ヲ以テ第壹號通知書來着ス

金壹千圓也

(正金)

(受入基金)

金百拾圓也啣筒壹個服部店買入

(受入基金)

(什器機械)

金六百圓也無煙炭拾萬打林店買入

(受入基金)

(倉庫品)

金四百圓也夕張炭拾萬斤炭鑛社買入

(受入基金)

(倉庫品)

金八百八拾圓也磐城炭二拾萬斤入山社買入

(受入基金)

(倉庫品)

一椅子卓机五脚分此代五拾八圓ヲ現金商店ヨリ現金ニテ買入ル

(營業費)

一火鉢五個代拾五圓ヲ恩本店ヨリ現金ニテ買入ル

(營業費)

一粘土拾六貫六百目代六拾圓ヲ山口店ヨリ掛ニテ買入ル

(他店勘定)(營業費)

一磐城炭拾二萬斤運賃金七拾圓八拾錢ヲ運送社へ現金ニテ仕拂フ

(營業費)

一技師ホウラントへ石灰山巡回旅費引當トシテ金五拾圓ヲ仕拂フ

(假拂)

一郵便切手代壹圓ヲ仕拂フ

(營業費)

一輪竹二百束代八拾圓ヲ藪商店ヨリ現金ニテ買入ル

(倉庫品)

一無煙炭參萬斤代百八拾圓磐城炭五萬斤代二百二十圓ヲ技術課へ拂渡ス

(倉庫品)

(營業費)

一職工用出勤簿二十冊此代三拾錢ヲ松島店ヨリ現金ニテ買入ル

(營業費)

一本社へ電信料金五拾五錢ヲ現金ニテ仕拂フ

(營業費)

一本日付第一號送狀ヲ以テ本社へセメント五百樽ヲ積出ス

(帳簿記入ハ商
品受拂帳ノミ)

本日有金七百二拾四圓參拾五錢

明治三十一年三月二十日

一金網代金參拾圓ヲ大坂金網合資會社ヨリ現金ニテ買入ル

(營業費)

一石灰屑千貫_{百貫ニ付}金壹圓替此代金拾圓ヲ現金ニテ賣渡ス

(倉庫品利益)

一本月本日ヨリ三月十五日付ヲ以テ第貳號通知書來着ス

一金貳千圓也

(正金)

(受入基金)

一金貳百五拾圓也骸炭拾屯今川店買入

(受入基金)

(倉庫品)

一金五拾圓 調革三拾尺代椿店買入

(受入基金)

(營業費)

一金五百圓也 セメント空樽五千樽大山店買入

(受入基金)

(倉庫品)

記

貯藏製品 千五百樽
 半製品 未碎セメント 五百樽
 角製仕上高 千八百樽

右三月二十日現在貯藏高ニ有之候也

明治三十一年三月廿一日

何々株式会社工場

本社御中

工場ニ於テ計算報告ヲ調製シタルトキハ該報告中假拂他店勘定倉庫品利益金等ノ勘定ニ就井テ一々内譯書ヲ調製シ之レニ計算報告及ヒ現在品調査ヲ添ヘテ本社ヘ送付スヘシ

假拂内譯書

一金百圓也

内譯

金五十圓

何某旅費引當

金五十圓

以上

何某へ買物代引當

第五節 棚卸ノ手續

第一 商品受拂帳、商品賣上帳、賣捌勘定帳、他店勘定帳、倉庫品元帳、株金拂込記入帳、株式名義書替記入帳、營業費内譯帳等ノ補助帳簿ヲ締上ケ各帳ニ就井テ内譯書又ハ表ヲ調製シテ總勘定元帳ニ於ケル該當口坐ノ殘高ト突合スヘシ

第二 總勘定元帳ニ設ケタル口坐中商品及ヒ商品整理勘定口坐ヲ總決算ヲナスニ先チテ日記帳ニ於テ夫々整理スヘシ

借	方	日	記	帳	貸	方
商品	6,000,000			商品整理勘定	6,000,000	
買上金	10,820,000			商品	10,820,000	

斯クノ如ク日記帳へ記入シタル後チ日記帳ヨリ總勘定元帳へ轉記シ又タ該元帳各勘定口坐ニ就井テ試算表ヲ調製シテ工場ヨリ計算報告及ヒ内譯書、貯藏製品調書等ノ

送付ヲ待ツヘシ

第三 工場ヨリ送付アルトキハ計算書及内譯書等ヲ調査シ先ツ計算報告中受入基金

科目ト總勘定元帳工場勘定口坐ノ金額ヲ突合セタル後チ計算報告ニ就キテ日記帳へ記入シ次ニ日記帳ヨリ總勘定元帳へ轉記スヘシ

第四 計算報告ヲ日記帳へ振替記入シタルトキハ工場調査ノ貯藏製品及ヒ半製品へ時價ヲ付シテ之ヲ整理記入スヘシ

第五 以上ノ手續ヲ經タルトキハ前章ノ例ニ從ヒテ總勘定元帳ヲ締切リテ貸借對照表及ヒ財産目錄計算書ヲ調製スヘシ

附 錄

株式賣買ニ付名義書替請求書

印紙

一 何々株式會社株式

自第何號
至第何號

何

株

但壹株ニ付金何圓拂込濟

今般何某へ賣渡候處實正也向後買受人ニ於テ法律ハ勿論其會社ノ定款及諸規則等ハ堅ク相守可申候間名義御書換被下度候依テ双方連印ヲ以テ此段請求候也

明治 年 月 日

賣渡人

何

某印

住 所

買受人

何

某印

何々株式會社

取締役御中

株式券狀ヲ賣渡シタルトキハ賣買人双方該請求書へ署名捺印シ之ニ株券ヲ添へテ會社へ申出ツルモノトス

株式讓受ニ付名義書換請求書

一何々株式會社株式

自第何號
至第何號

何

株

但壹株ニ付金何圓拂込濟

今般相續人何某ニ於テ讓受候處實正也向後讓受人ニ於テ法律ハ勿論其會社ノ定款及諸規則等ハ堅ク相守可申候間名義御書替被下度候依テ相續人證明書相添へ親族保證人連印ヲ以テ此段請求候也

住 所 相續人

讓受人

何

某印

住 所

親族證人

何

某印

住 所

同

何

某印

明治 年 月 日

何々株式會社取締役御中

株式所有者死シ相續人ニ於テ遺留財産ヲ讓受タルトキハ前掲ノ書式ヲ以テ名義書替ヲ會社へ請求スルモノトス

株式(粉失、燒失)ニ付新券請求書
(盜難)

一拙者所有ノ何々株式會社株式ノ内 自第何號 何株本年 月 日(粉失、燒失)候處相違無之候也就テハ定款第何條ニ據リ規定ノ手續ヲ了セシ上新券交付相成度候右ニ關スル諸入費等ハ拙者ニ於テ辨償可致候依テ證人連印ヲ以テ此段請求候也

住 所

株 主

何

某印

住 所

證 人

何

某印

何々株式會社取締御中

紛失シ又ハ出火ノ爲メニ焼失シ及ヒ盜難ニ罹リタルトキハ左掲ノ書式ニ依テ新タニ株券交付ヲ請求スルモノトス

委任狀



拙者儀都合ノ爲メ何々株式會社株主何某ヲ以テ部理代人ト定メ左ノ權限ヲ委任致候事

一何々株式會社明治 年 月 日 (通常)總會へ出席シ發言投票其他當總會ニ係ル一切ノ件

右委任狀依テ如件

明治 年 月 日

株主 何

某印

株主ニシテ通常又ハ臨時總會へ出席シ難キ場合ニハ前掲ノ委任狀ヲ以テ同會社株主

(取締役及監查役若クハ事務員ヲ除ク)中ノ者へ代理ヲ委托スルモノトス

印鑑用紙

印鑑	
名 姓	所住

新タニ株主トナリタル者ハ會社ヨリ印鑑紙ヲ請求シ之ニ署名捺印シテ會社へ差出し置クヘキモノトス

114114

符切		科目		納收	
要	摘	明治	號	受	先
		月	年	金額	
		日	年	金額	

符切		科目		拂任	
要	摘	明治	號	渡	先
		月	年	金額	
		日	年	金額	

告報上賣品商

要		摘		明治	
				年	日
				第何	販賣係
				號	印
				賣渡人	
				何	
				金額上	
				個數	
				單價	
				金額	
				仕拂	
				種類	
				種類	
				現金	
				又掛等	
				ヲ記載ス	

告報出拂品商

要		摘		明治	
				年	日
				第何	主任
				號	印
				何	
				個數	
				樽	
				何某渡シノ類ヲ記載ス	

113114

振替傳票

借方		明治 年 月 日		貸方	
振替摘要	金額	振替摘要	金額	振替摘要	金額

明治 年 月 日	第何 號 主任 印	個 數	摘要	商 品 受 入 報 告	
				何月何日付第何號送狀ヲ以テ受入又ハ 何某渡積戻ノ類ヲ記載ス	

何々株式會社定款

第壹章 總 則

- 第一條 本會社ハ何々株式會社ト稱シ本社ヲ何市ニ支店ヲ何市ニ設置ス
- 第二條 本會社ハ何々製造及販賣ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會社ノ資本總額ハ金何萬圓ト定ム
- 第四條 本會社ハ營業年限ヲ定メズ故ニ法律ノ規定ニ依ルニ非レハ解散スルコナシ
- 第五條 本會社ハ左記ノ印章ヲ以テ社印ト定ム

何々
株式會社
社 印

方 八 分

第貳章 株式

第六條 本會社ノ資本金ハ之ヲ何株ニ分チ壹株ヲ金五拾圓トシ株式一個ニ付株券一枚ト定ム

第七條 本會社ノ株金拂込ハ最初株式引受申込ノ際壹株ニ付金壹圓五拾錢ヲ證據ト

シテ入金シ其他ハ左ノ割合ヲ以テ何個年間ニ拂込ムモノトス

第壹回金拾貳圓五拾錢

右會社設立ノ免許ヲ得タル時ヨリ二ヶ月以内ニ拂込ムモノトス

第貳回以下ノ拂込ハ明治年月日迄ノ間ニ於テ締取役會ノ決議ヲ以テ其期日ヲ定メ期日ヨリ少ナクトモ九十日以前ニ之ヲ通知スベシ

第八條 第一回ノ株金拂込ハ前條ノ期間ニ於テ取締役特ニ其期日ヲ定メ少クモ十四日前ニ各株主ニ通知スヘシ

第九條 第七條ニ依リ株式引受人ヨリ差入タル證據金ハ第壹回株金拂込ノ時返還スベシト雖モ若シ其拂込ヲ怠タル時ハ違約金トシテ之ヲ會社ニ沒收スベシ

第十條 株金ノ拂込ヲ怠リタル株主ハ其拂込ムヘキ金額ニ對シ金百圓ニ付日歩金四錢ノ割合ヲ以テ遅延利息及拂込延滞ノ爲メニ生シタル費用ヲ支拂ハシムヘシ

第十一條 株金ノ拂込ヲ怠リタル株主ニ對シテハ本會社ハ更ニ十四日ヨリ少ナカラサル期間ニ於テ拂込ムヘキ催告ヲ爲シ尙拂込ヲ爲ササル時ハ本會社ハ其株主ニ通知シ其株券ヲ公賣ス

第十二條 前條公賣ニ付シタル賣得金若シ拂込ムヘキ金額、利息及拂込延滞ノ爲メニ生シタル費用ニ滿タサルトキハ前所有者ヲシテ其不足額ヲ辨償セシム若シ剩餘アレハ之ヲ還付ス

第十三條 株券ヲ賣買讓與若クハ遺産相續ノ爲メ名義ノ書換ヲ要スルモノハ本會社ニ於テ定メタル書式ノ證書ヲ作り其株券ト共ニ本會社ヘ差出スヘシ本會社ハ株主名簿ニ照査シ名義ノ書換ヲ爲シタル後手数料トシテ壹株ニ付金五錢ヲ買受人若クハ讓受人ヨリ受取リ之ニ株券ヲ換附ス

第十四條 株主其氏名及住所又ハ實印ヲ變更シタル時ハ直チニ本會社ヘ届出ツヘシ氏名變更ノ届書ニハ二名以上ノ證人ヲ立テ手数料トシテ壹株ニ付金五錢ヲ添ヘ株券ノ書換ヲ請求スヘシ

第十五條 株券磨滅損壞シタルトキハ其株券ニ請求書ヲ添ヘ新株券ト交換ヲ求ムヘシ又燒亡紛失シテ新株券ノ交附ヲ求ムル時ハ其事實ヲ明記シ證人二名以上ノ連署ヲ以テ申出ツ可シ此場合ニ於テハ本會社ハ請求者ノ費用ヲ以テ三種以上ノ新聞紙ニ三日間該株券ノ無効ニ歸シタル旨ヲ廣告シ三十日ヲ經ルモ發見セサルトキハ新

株券ヲ交附ス但シ新株券一枚ノ手数料ハ金二十五錢トス

第十六條 株主名簿及計算閉鎖ノ爲メ事業年度毎ニ公告ヲ爲シテ三十日ヲ踰ヘサル
期間株券ノ名義書換ヲ停止スルコトアルヘシ

第三章 役員

第十七條 本會社ニハ左ノ役員ヲ置ク

一 取締役 三乃至五名

一 監査役 二名若クハ三名

第十八條 取締役ハ何株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉ス

第十九條 取締役ハ互撰ヲ以テ取締役會長又ハ專務取締役何名ヲ撰舉ス取締役會長

ハ取締役會ヲ整理シ及專務取締役事故アル場合ニ於テ其事務ヲ攝整ス

第二十條 取締役ノ任期ハ三個年トス但シ滿期再撰スルコトヲ得

第二十一條 取締役現任中ハ其所有ノ株券五拾株ヲ本會社ニ預ケ置クヘシ

第二十二條 監査役ハ何株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ撰舉ス

第二十三條 監査役ノ任期ハ二個年トス但シ滿期再撰スルコトヲ得

第二十四條 取締役及監査役ニ不時ノ缺員ヲ生シタル時ハ臨時總會ヲ開キ補缺撰舉

ヲ爲スヘシ其任期ハ前任者ノ殘期間就職スルモノトス取締役及監査役缺員ヲ生ス

ルモ現員ノ數法律ノ定員ヲ缺カス且ツ現員ニ於テ事務ニ差支ナシト認ムル時ハ次

ノ改撰期迄補缺ヲナサザルモ妨ナシ

第二十五條 取締役會議ハ左ノ事項ヲ議決ス

一、會社營業上ニ係ル重要ノ事件

一、支店又ハ出張所設置ノ事件

一、裁判ニ係ル事件

一、職員ノ俸給任免及賞罰

第二十六條 本會社ノ訴訟能力ハ專務取締役之ヲ行フ若シ專務取締役差支アルトキ

ハ他ノ取締役ノ互撰ニヨリ其時々執行者ヲ定ムルモノトス

第二十七條 取締役ハ取締役會ノ協議ニヨリ業務ノ分擔ヲ爲シ得ルモ其在任中ニ生

シタル義務ニ付テハ連帶ノ責任ヲ負フモノトス

第二十八條 役員ノ給料又ハ報酬ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 株主總會

第二十九條 株主總會ハ通常總會臨時總會ノ二種トス

第三十條 通常總會ハ毎年一月及七月ニ之ヲ開ク

第三十一條 通常總會ハ總株式四分ノ一以上ヲ有スル株主（代理ヲ委任シタル株主ノ株式ヲモ合算ス以下之ニ同シ）出席スルヲ以テ成立ス

第三十二條 臨時總會ハ總株式ノ三分ノ一以上ニシテ總株主ノ三分ノ一以上ニ當ル株主出席スルヲ以テ成立ス

第三十三條 定款ヲ改正シ又ハ任意解散ヲナサントスル時ハ總株式ノ二分ノ一以上ニシテ總株主ノ二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十四條 總會ニ於テ定數ノ株主出席セザル時ハ之ヲ延會シ又ハ假リニ議決ヲナシ更ニ二十四日以内ニ第二總會ヲ招集ス其通知ニハ若シ第二總會ニ於テ定數ノ株主出席セストモ出席株主議決權ノ多數ヲ以テ仮議決ヲ認可シタルトキハ之ヲ有効トナスヘキ旨ヲ明記スヘシ但シ計算報告及配當金ノ割合ニ關スル決議ハ此手續ヲ要ス

セス

第三十五條 第三十三條ニ規定シタル場合ノ外總會ノ議決ハ出席株主議決權ノ過半數ニ依ル若シ可不同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

第三十六條 事故アリテ出席セサル株主ハ他ノ株主ヘ委任狀ヲ附與シテ議決權ヲ代理セシムルコトヲ得

法律上代理人ハ總會ニ列スルコトヲ得但シ代理人タル證明書ヲ差出スコトヲ要ス

第三十七條 總會ノ通知ハ緊急ヲ要スル事件ノ爲メ臨時總會ヲ開ク時ノ外ツナクトモ十四日以前ニ爲スヘシ其凡テノ通知ニハ日、時、場所、及會議ノ目的事項ヲ明記スヘシ

第三十八條 總會ノ議長ハ取締役會長之ニ任シ取締役會長事故アレハ他ノ取締役之ニ任ス若シ其議事取締役ノ職務上ニ關スル時又ハ株主ヨリ請求ノ臨時總會ニハ出席株主ヨリ之ヲ撰任スルコトヲ得

第三十九條 總株式ノ五分ノ一ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的事項ヲ明示シ臨時總會ヲ請求シタル時ハ取締役ハ其申出ノ日ヨリ二十日ヲ過クルヲナク之レカ招集ヲナス

第四十條 總會ニ於テ株主ノ議決權ハ壹株ヲ一個トス

第四十一條 總會ノ議事ハ議題外ノ事項並ニ人ノ毀譽褒貶ニ涉ルコトヲ得ス

第四十二條 議事及採決ノ順序方法ハ凡テ議長ノ意見ニ依ル若シ異議アルトキハ出席人員ノ多數決ニ依リテ之ヲ定ム

第四十三條 總會ノ決議ハ議事録ニ登載シ議長監査役及筆記者署名捺印スヘシ

第五章 計算

第四十四條 本會社ハ一月ヨリ六月マテ七月ヨリ十二月マテ一個年兩期ニ分チ每期

計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書及利金ノ分配案ヲ作り監査役ノ検査ヲ經テ總會ニ付スヘシ

第四十五條 本會社ノ利益金ハ毎期末日株主現在ノ株主ニ配當ス

第四十六條 利益金分配科目及割合左ノ如シ

- 一 法定積立金 百分ノ五以上
- 一 何々償却積立金 若干

一 別途積立金 若干

一 役員賞與金 百分ノ五以下

一 雇員賞與金 百分ノ五以下

一 株主配當金 若干

明治何 年 何月 何日 確 定

東洋セメン株式會社營業內規

第一章 取締役會規則并ニ取締役會長及

專務取締勤務規則

第一條 取締役會ハ毎月第一第三火曜日之ヲ開キ定款ノ規定ニ從ヒ本會社諸般ノ事

務ヲ議決ス

第二條 取締役會ハ取締役會長之ヲ整理ス會長事故アル時ハ年長者之ヲ代理ス

第三條 取締役會ノ議決ハ多數決ニ依ル

第四條 取締役會議決ノ事項ハ之ヲ決議録ニ詳記シ取締役各自調印スヘシ

第五條 取締役會ハ取締役半数以上出席スルニ非ラサレハ開會スルコトヲ得ス

但缺席者ハ次回出席ノ時決議録ニ調印スヘシ

第六條 取締役會ハ議事ノ都合ニ依リ支配人ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第七條 臨時急速ノ處置ヲ要スル事項生セシ場合ニ於テハ專務取締役ハ其ノ旨ヲ通知シ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

但臨時會ヲ開クヘキ違ナキ時ハ專務取締役之ヲ決行シ追テ取締役會ノ承認ヲ受クヘキモノトス

第八條 專務取締役ハ取締役會ノ決議ヲ執行シ本會社職員雇員ヲ指揮監督シ其ノ他通常ノ業務ヲ掌理ス

第二章 職員業務規則

第九條 本會社ノ業務ヲ執行スル爲メ定款ニ定メタル重役ノ外左ノ職員ヲ置ク
但營業上ノ都合ニ依リ定數ノ職員ヲ置カサルモ妨ケナシ

- 支配人 二名 副支配人 一名 工場長 一名
- 技師 一名 各課主任 各一名
- 書記 若干名 技手 若干名

第十條 營業上ノ都合ニ依リ前條ノ外雇員ヲ置クコトヲ得

但雇員ト稱スル者ハ社務ニ従事シ職員ニ準スルモノヲ云フ以下皆同シ

第十一條 支配人ハ命ヲ取締役ニ承ケ職員ヲ督勵シ本會社諸般ノ事務ニ服ス

第十二條 副支配人ハ支配人ノ事務ヲ輔佐シ支配人欲員ノ時若クハ事故アル時ハ其ノ事務ヲ代理ス

第十三條 支配人ハ成規定例アルモノニシテ取締役ノ委任ヲ受ケタル事項ハ直チニ之ヲ施行シ其ノ責ニ任ス

第十四條 工場長ハ命ヲ取締役ニ承ケ工場諸般ノ事務ヲ掌理シ部下ヲ指揮監督シテ其ノ責ニ任ス

第十五條 工場長ハ成規定例アルモノニシテ當然措置スヘキモノハ直チニ之ヲ施行スルコトヲ得

第十六條 工場長ハ臨時緊急ノ處置ヲ要シ稟請ノ違ナキ時ハ臨機ノ處分ヲ爲シ事後速ニ申報シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 技師ハ取締役又ハ工場長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十八條 工場支配人ハ命ヲ工場長ニ承ケ工場ノ事務ニ服ス工場長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第十九條 各課主任ハ所屬長ノ命ヲ承ケ其ノ課務ニ服ス

第二十條 書記ハ所屬長ノ命ニ從ヒ其ノ事務ニ服ス

第二十一條 技手ハ所屬長ノ命ニ所ヒ其ノ事務ニ服ス

第二十二條 本店ニ左ノ三課ヲ置ク

庶務課

本社財産、社印、株主名簿、株式、其ノ他重要書類ノ保管諸文書ノ往復諸官衙ニ係ル事件其ノ他一切ノ雜務ヲ掌ル

會計課

收支豫算決算、帖簿ノ整理、金錢物品ノ出納ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

營業課

セメント販賣、出納、運搬、貯藏、及保管ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二十三條 工場ニ工務課及技術課ヲ置ク

庶務掛

出張所財産、所印、其ノ他重要書類ノ保管諸文書ノ往復諸官衙ニ係ル事件職工取締及其ノ他一切ノ雜務ヲ掌ル

會計掛

收支豫算決算、帳簿ノ整理、金錢ノ出納保管ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

倉庫掛

製造用諸原料及セメントノ出納貯藏及ヒ保管ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

技術課

セメントノ製造及セメント業ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二十四條 工場長ハ一ヶ月毎ニ經費ノ豫算書ヲ調製シ前月中ニ之ヲ本社ニ提出シ取締役ノ認可ヲ受クヘシ其ノ支拂決算ハ翌月十日限り報告スヘシ

但豫算外ノ支出ヲ要スル時ハ必ス取締役ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 技師ハ十日毎ニセメントノ製造及送品貯品ノ數量并ニ事業ノ狀況ヲ報告スヘシ

第三章 職員勤務通則

第廿六條 職員ハ本社ノ諸規則ヲ恪守シ所屬長ノ命令ニ從ヒ誠實ニ職務ニ從事スヘシ

第廿七條 定マリタル休業日ヲ除ク外毎日定時出社スヘシ

但休業日ト雖モ本社ノ都合ニ依リ出勤セシムルコトアルヘシ

第廿八條 毎朝出勤ノ節直ニ勤怠簿ニ捺印スヘシ

第廿九條 執務時間中ハ漫リニ退出スヘカラス病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ欠勤スルハ當日本社ニ届出ツヘシ

但病氣ノ爲メ引續キ七日以上欠勤スル時ハ醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第三十條 歸省又ハ病氣ノ爲メ轉地療養ヲ爲サントスル時ハ往復滞在ノ日數ヲ豫定シ所屬長ヲ經テ專務取締役ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 本社ノ許可ヲ得スシテ他ノ商工業ヲ營ム可カラス

第三十二條 本社ノ秘密又ハ未發ノ事件ハ他ニ漏洩スヘカラス

第三十三條 故意ハ勿論職務怠慢ノ爲メ本社ノ損害ヲ醸シ又ハ体面ヲ汚ス等ノ所爲

アル時ハ其ノ損害ヲ辨償セシメ猶ホ情況ニ依リ免職ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十四條 前條ノ辨償金ハ身元保證金及ヒ俸給ノ内ヨリ引去リ猶ホ不足アル時ハ本人并ニ身元引受人ヨリ追徴スヘシ

第三十五條 職員ハ就職ノ際身元引受人連署ヲ以テ左ノ誓約證書ヲ差出スヘシ

但身元引受人ハ本社ニ於テ信認スル人ニ限ル

誓約證書

一紙印

姓 名

右者今般貴社ニ勤務仕候ニ就テハ貴社ノ諸規則ヲ恪守シ所屬長ノ命令ニ從ヒ誠實ニ勉勵可仕ハ勿論貴社ノ御都合ニ依ルノ外自分勝手ニ退社申出間敷候萬一不

得止事情有之節ハ前以テ其ノ事情ヲ申出テ貴社ノ御命令ヲ相受可申候尙ホ本人

身元及辨償等ノ義務ニ就テハ身元引受人ニ於テ其ノ責ニ任シ毫モ貴社へ御迷惑

相掛申間敷候仍テ誓約證書如件

年 月 日

住 所

本 人 姓

名 印

東洋セメント株式會社

御 中

住 所

身元引受人 姓

名印

第三十六條 職員退社後勤務證明書ヲ請求スル時ハ左ノ證明書ヲ交附スヘシ
但本人在勤中實況ニ依リ本社ハ此ノ證明書ヲ拒ムコトアルヘシ

勤務證明書

姓

名

右者何年何月ヨリ何年何月迄本社ニ勤務シ誠實ニ勉勵シ毫モ不都合無之候(或ハ)特ニ其ノ効績ヲ略記スルコトアルヘシ仍テ勤務證明書ヲ交附スルモノ也

年 月 日

東洋セメント株式會社 社印

第三十七條 本社休業日ハ左ノ通り
但出張所休業日ハ別ニ之ヲ定ム

大祭祝日、日曜日、一月一日、二月三日、十二月三十一日

第四章 俸給慰勞金規則

第三十八條 專務取締役ノ俸給及ヒ年額ヲ以テ定メタル職員ノ俸給ハ其ノ年額ヲ十分二分シ毎月之ヲ支給ス

第三十九條 取締役會長取締役ノ俸給及ヒ監査役ノ報酬ハ每季末之ヲ支給ス

第四十條 職員及ヒ雇員ハ身分ヲ區別シ九等五級トシ其ノ身分ニ應シ左表ニ據リ俸給ヲ支給ス

職員俸給表

等 級	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	九 等
一 級	百 圓	八十圓	六十圓	四十五圓	三十五圓	廿六圓	二十圓	十六圓	十二圓
二 級	九十圓	七十圓	五十圓	四十圓	三十圓	廿三圓	十八圓	十四圓	十圓

雇員俸給表

等 級	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級
日給金額	壹圓以上	五十錢以上	廿五錢以上	拾錢以上	拾錢未滿

第四十一條 年俸ヲ以テ任用シ又ハ手當ヲ以テ囑托シタル者ノ等級ハ其ノ支給スル俸級ノ月額ヲ算出シ前條第一項ノ例ニ依リ之ヲ定ム

但囑托員ハ手當金ノ月額ニ拘ハラステニ等級ヲ定ムルコトアルヘシ

第四十二條 月俸ヲ以テ任用シタル雇員ノ等級ハ該月俸額ヲ二十五分シ日給額ヲ算出シテ之ヲ定ム

第四十三條 俸給ハ毎月廿五日ヲ以テ支給ス

但休業日ニ當ル時ハ一日ヲ繰下クルモノトス

第四十四條 任免又ハ俸給ヲ増減スル時ハ辭令ノ當日ヨリ又ハ當日迄計算ヲ以テ支給ス

但解雇退社ノ場合ニ於テハ其ノ辭令ノ本人ニ達シタル日ヲ以テ限リトス尤モ事務引繼ノ爲メニ要スル日數ハ尙ホ舊額ヲ支給ス

第四十五條 職員及月俸ヲ以テ使用シタル雇員病ニ依リ引續キ執務セサルコト三十日ヲ越ユル時ハ俸給ノ半額ヲ支給シ六十日以後ハ總テ支給セス

但取締役ニ於テ適當ト認ムル時ハ本條ノ期間ヲ延ハスコトアルヘシ

第四十六條 日給ハ休暇日ハ勿論病氣其ノ他何等ノ事故アルモ欠勤スル者ニハ支給セス

第四十七條 俸給日割計算法ハ月額ニ其ノ日數ヲ乘シ之ヲ三十ニテ除スヘシ厘位以下ノ端數ハ切捨トス

第四十八條 職員及月俸ヲ以テ使用シタル雇員死亡シタル時ハ其ノ月ノ俸給金額ヲ支給シ尙ホ吊祭料トシテ五圓以上拾五圓以下ノ金額ヲ贈與ス

但本社ノ爲ニ特別功勞アリシ職員ヘハ取締役會ノ決議ニ依リ本文ノ成規ニ拘ハラズ相當ノ金員ヲ贈與スルコトアルヘシ

第四十九條 日給ヲ以テ使用シタル雇員死亡シタル時ハ其ノ身分ニ應シ前條規定ノ範圍内ニ於テ吊祭料ヲ贈與ス

第五十條 職員及雇員勤務ノ爲メ傷疾シ就職スルコト能ハサル場合ニ於テハ第四十五條第四十六條ノ例ニ依ラス俸給ノ全額ヲ支給シ尙ホ相當ノ治療費ヲ支給ス

第五十一條 職員及囑托員職務ノ爲メ死亡シタルトキハ左ノ等級ニ依リ祭祀料ヲ贈與ス尙ホ情況ニ依リ遺族ニ補助料ヲ給與スルコトアルヘシ

- 一等 五拾圓
- 二等 三拾圓
- 三等 二十五圓
- 四等 十圓
- 五等 九圓
- 六等 八圓
- 七等 拾五圓

但雇員全様ノ場合ニ於テハ俸給ノ月額ヲ以テ第四十條第一項俸給表ニ照シ本條ノ等級ニ依リ給與スルモノトス若シ該俸給ノ月額十圓ニ滿タサルモノアルトキハ總テ九等職員ノ例ニ據リ之ヲ給ス

第五章 旅費規則

第五十二條 本會社役員及使用人社用ヲ帶ヒ旅行スル時ハ左表ノ割合ヲ以テ旅費ヲ給ス

種別	役別	等級	金額	單位	備考
瀛車賃	重	一等乃至三等職員	中	上	等
		四等乃至七等職員	中	等	中
瀛船賃	重	一等乃至三等職員	中	上	等
		四等乃至七等職員	中	等	中
車馬賃	重	一等乃至三等職員	中	上	等
		四等乃至七等職員	中	等	中
日當	重	一等乃至三等職員	中	上	等
		四等乃至七等職員	中	等	中
日歸手當	重	一等乃至三等職員	中	上	等
		四等乃至七等職員	中	等	中

等級	職員	金額
八等	下	金拾五錢
九等	下	金壹圓二拾錢
三級以下	下	金壹圓
三級以下	下	金三拾錢

第五十三條 日當ハ發足ノ日ヨリ歸着若クハ到着ノ日迄其ノ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

第五十四條 車馬行三里以上瀛車瀛船拾哩以上ニシテ一日以内ニ往復ノ便アル路程ヲ旅行スルトキハ日當ヲ給セス瀛車瀛船車馬賃實費ノ外日歸手當ヲ給ス

但要務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ其ノ宿泊日數ニ應シテ日當ヲ給ス

第五十五條 第五十四條規定ノ外日常要スル處ノ車馬費及其ノ他ノ費用ハ凡テ實費ヲ給スルモノトス

第五十六條 社有若クハ雇入ノ瀛車汽船又ハ車馬ニテ旅行スルトキハ汽車賃汽船賃又ハ車馬賃ヲ給セス別ニ第五拾二條規定ノ等級ニ相當ノ便乘券ヲ給ス

第五十七條 赴任旅費ハ其等級相當ノ旅費ノ倍半ヲ給ス
但旅行先ニ於テ其ノ儘在勤セシムル者ハ通常旅費ト赴任旅費トノ差額ヲ追給

ス

第五十八條 新ニ任用スル爲メ召喚シタル者ニ對シテハ所在地ヨリ召喚地迄本人ノ身分ニ應シタル實費旅費ヲ給スルコトアルヘシ

第五十九條 工場赴任ノ者家族ヲ携帶スルトキハ本人旅費ノ外其ノ家族ノ人數ニ應シ一人毎ニ本人赴任旅費ノ半額ヲ給ス

但滿十年以下ノ者ハ其ノ半額ヲ給ス

第六十條 工場ニ於テ解雇セシ者ハ其ノ所在地ヨリ本社迄ノ通常旅費ヲ給ス若シ家族ヲ携帶スル者ハ前條ノ例ニ據リ本人旅費ノ半額ヲ給ス

但解雇同時ニ他所ヘ轉任スル者又ハ轉任ノ内約アル者ハ旅費ヲ給セス

第六十一條 社用ニテ旅行中會社ノ承諾ヲ得テ歸省又ハ私事ノ爲メ他路ヘ轉スルト

キハ其ノ日ヨリ旅費ヲ給セス又私事旅行中社務ニ従事シタルトキハ其ノ日ヨリ旅費ヲ給ス

第六十二條 旅行中病氣其ノ他止ムラ得サル事故ニ因リ滞在スルトキハ日當ヲ給ス此場合ニ於テハ旅店ノ證明書又ハ醫師ノ診斷書ヲ以テ證明スヘシ其ノ證明ナキト

キハ之ヲ給セス

第六十三條 旅行中死亡シタル時ハ其遺骸送致ノ實費ヲ給ス

第六十四條 旅費并ニ旅行中ノ臨時費用ニ充ツヘキ爲メノ豫備金ハ出發前概算ヲ以テ仮渡ヲ爲スコトヲ得此場合ニハ歸着若クハ到着ノ上決算ヲ爲サシム

第六十五條 急行其ノ他旅行ノ情況ニ因リ規定旅費ニ據ルコト能ハサルトキハ總テ實費仕拂ヲ許スコトアルヘシ

第六十六條 總テ臨時費其ノ他ノ實費仕拂ヲ爲シタルトキハ受取證書ヲ以テ證明スルコトヲ要ス

但實際證書ヲ徵スルコト能ハサルトキハ仕拂書ヲ作り以テ證書ニ代フヘシ

第六章 職員身元保證金規則

第六十七條 本會社支配人以下ノ職員ハ本人俸給ノ半ケ年額ヲ身元保證金トシテ本會社ヘ差入置クヘシ

第六十八條 身元保證金ハ公債證書其他確實ナル銀行并ニ會社ノ株券ヲ以テ代用スルコトヲ得

但本文公債株券ノ種類及其ノ價格ハ取締役會ニ於テ之ヲ定ム

第六十九條 身元保證金ハ一時全納スヘキ者タリト雖モ事情ニ依リ全納シ能ハサル者ハ定額ニ達スル迄毎月俸給額ノ二十分ノ一ヲ納メシメ賞與金アル時ハ其ノ十分ノ二ヲ納メシメ漸次追充セシムルヲ得

第七十條 身元保證金ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖スルモノトス

但本人ノ身元保證金納入定額ニ充タサル間ハ本文利子ヲ身元保金ニ組入ルヘシ

第七十一條 身元保證金ハ本人辭職スルカ會社ヨリ退職ヲ命スルカ又ハ本人死亡ノ外一切取戻スコトヲ得ス

第七十二條 身元保證金ハ本人本會社ニ對シ損害ヲ醸シタル場合ニ於テ先ツ之カ賠償ニ充ツヘキモノトス

第七十三條 工員ハ身元保證金ヲ徵收セス

工場及職工規則

第一章 分業

第一條 工場ヲ何々ノ何區ニ分チ何區中左ノ各部ヲ置ク

何何區

何々部

何々部

何々部

何々區

何々部

何々部

第二章 職工

第二條 職工中左ノ員ヲ置ク

工 手

工手補

助 手

第三條 工手ハ技師ノ命ヲ受ケ各部ヲ分擔シ普通職工ヲ指揮監督スルモノトス

工手補ハ其職務工手ニ亞ク

第四條 助手ハ工手ヲ助ケ其部内ノ雜事ヲ掌ルモノトス

第五條 職工ニシテ特別ノ職名ナキ者ハ總テ普通職工ト稱シ專ラ現業ニ從事セシム

第三章 職工入社退社

第六條 職工トシテ入社ヲ乞フモノハ申込書ヲ工業課ニ差出シ指揮ヲ待ツ可シ

第七條 職工トシテ始テ入社スル者ハ三週間以内見習職工トシ其技能ヲ試験シタル

後採否ヲ定ム可シ

第八條 職工ニ採用セラレタル者ハ府下住居ノ者二名以上ヲ保證人ト定メ本人連署勤務契約書ヲ差出スヘシ

第九條 職工ニシテ解雇ヲ乞フ時ハ工務課ニ申立テ指揮ヲ乞フ可シ

第十條 正當ノ理由ニ依リ職工ヲ解雇シタルトキハ籍族年齢業務ノ種類年限給料及解雇ノ理由ヲ記載セル證明書ヲ付與ス可シ

第四章 職工給料

第十一條 職工ハ總テ日給トス其定額左ノ如シ

工	手	自貳拾錢	至壹圓
工	手	自拾五錢	至七拾錢
助	手	自拾錢	至五拾錢
普通	職工	自參錢	至五拾錢
見習	職工	拾六錢以下	

第十三條 前條ノ如ク金額ヲ定ムト雖モ精勤ニシテ技術優等ナル者ニハ特ニ定額以

上ノ日給ヲ與ヘ又ハ月給トナスコトアル可シ

第十三條 見習職工壹週間以内ニシテ退社スルモノニハ給料ヲ與ヘス

第十四條 職工定時間外ニ就業スルルハ其勤務時間ニ應シ平時ノ給額ニ割合セ相當ノ増給ヲ與フヘシ

第五章 就業時間及休業日

第十五條 就業時間ハ晝夜ヲ論セス十二時間ヲ以テ一日分トス

第十六條 晝夜兼業ニ在テハ晝夜各職工ヲ交替セシメ尙ホ十日毎ニ晝夜業者全部ノ交替ヲナサシムヘシ

第十七條 食事時間及交替時間ニ三十分ヲ超ユヘカラス

第十八條 晝夜トモ食事時間前後ニ於テ十五分ヨリ長カラサル休憩時間ヲ與フヘシ

第十九條 職工ハ出勤定刻ヨリ遅クモ五分前ニ出勤スヘシ

第二十條 職工出勤定刻ニ後レテ參社シタルモノハ工務課ニ事故ヲ申立テ其許可ヲ受クルニアラサレハ入場ヲ得ス

第二十一條 休業日ハ左ノ如シ

三大節 每月十五日 每月末日 一月一日ヨリ三日ニ至ル 十

二月廿九日ヨリ三十一日ニ至ル

但業務多忙ナルハ休業日ト雖モ操業スルコトアル可シ

第六章 職工欠勤

第二十二條 男工疾病ノ爲メ欠勤スルハ當日工務課へ届出ツ可シ若シ欠勤七日以上ニ及フハ七日毎ニ醫師ノ診断書ヲ差出ス可シ

第二十三條 女工疾病ノ爲メ欠勤七日以上ニ及フハ七日毎ニ工務課へ届出ツ可シ

第二十四條 職工已ヲ得サル事故アリテ休業セントスルハ豫メ其日數ヲ申出テ工務課ノ許可ヲ受クヘシ

第二十五條 無届ニシテ欠勤スルモノ男工ハ十五日女工ハ三十日ニ及フハ除名ス可シ

可シ

第七章 職工負傷疾病

第二十六條 職工業務ノ爲メ負傷シタルモノト認ムルハ施療ヲナシ療養中ハ相當ノ手宛金ヲ給與ス可シ

第二十七條 前條ノ負傷ニ依リ廢疾トナリ又ハ死亡セシモノニハ相當ノ救助ヲナスヘシ

第八章 職工心得

第二十八條 職工タル者ハ諸規則ハ勿論指揮者ノ命令ヲ遵守シ誠實ニ業務ヲ操ルヘシ

第二十九條 各自所持ノ機械器具等ハ大切ニ保管使用シ指揮者ノ命令アルニアラサレハ各部互ニ貸借等ヲナスヘカラス且操業ヲ妨ケサル限ハ常ニ之カ掃除ヲナス可シ

第三十條 製造品及原料品ハ損傷汗染等ヲ生セサル様注意ヲ加ヘ叮嚀ニ之ヲ取扱フ可シ

第三十一條 非常變災ノ節ハ出勤中ノ者ハ勿論休息ノ者ト雖直ニ場内ニ至リ指揮者ノ命ヲ受ケ防禦ニ盡力スヘシ

第三十二條 職工ニ來訪者アルハ休息時間ニ於テ面會ス可シ若シ至急ヲ要スルハ工務課ニ申出テ其許可ヲ受ク可シ

第九章 禁令

第三十三條 職工相互ノ交際ハ友誼ヲ旨トシ禮節ヲ乱ルヘカラス殊ニ男女間ニ在リ

テハ決シテ昇猥ナル言語舉動アルヘカラス

第三十四條 職工ハ各自受持ノ業ヲ守リ決シテ他人ノ業ニ于與スヘカラス

第三十五條 他人ヲ工場内ニ伴フコトハ嚴禁トス但掛役員ノ特許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第三十六條 工場内ノ事ハ一切他人ニ語ルヘカラス

第三十七條 工場内ニ於テ無用ノ雜談ヲナスヘカラス

第三十八條 工場内ニ於テハ特ニ定メタル場所ノ外吸煙ヲナスヘカラス

第三十九條 工場内ニ於テハ特ニ定メタル場所ニテ特ニ許サレタルモノ、外新聞雜書ヲ讀ム可カラス

第十章 賞與及恩給

第四十條 職工一ヶ月又ハ一ヶ年間皆勤ノ者ニハ月年末ニ於テ賞與ヲナスヘシ

第四十一條 職工ニシテ品行方正勉勵衆ニ超ユルモノ又ハ工業ニ便益ナル發明ヲナシタル者等ニ對シテハ臨時賞與ヲナスヘシ

第四十二條 職工豫約年限ヲ全クシ業務精勤技術熟練ノ者ニハ解雇ノ際其成績證明

書ト共ニ一時恩給金ヲ與フルコトアルヘシ

第四十三條 前條ノ職工ニシテ滿期後勤績スルモノニハ毎月給料ノ外ニ恩給金ヲ與フル事アル可シ

第十一章 懲戒

第四十四條 職工諸規則又ハ指揮者ノ命令ニ背キ或ハ不正怠慢ノ所業アルキハ其輕重ニ依リ左ノ懲戒ニ處ス可シ

阿責 償金 減給 停勤 解雇

附則

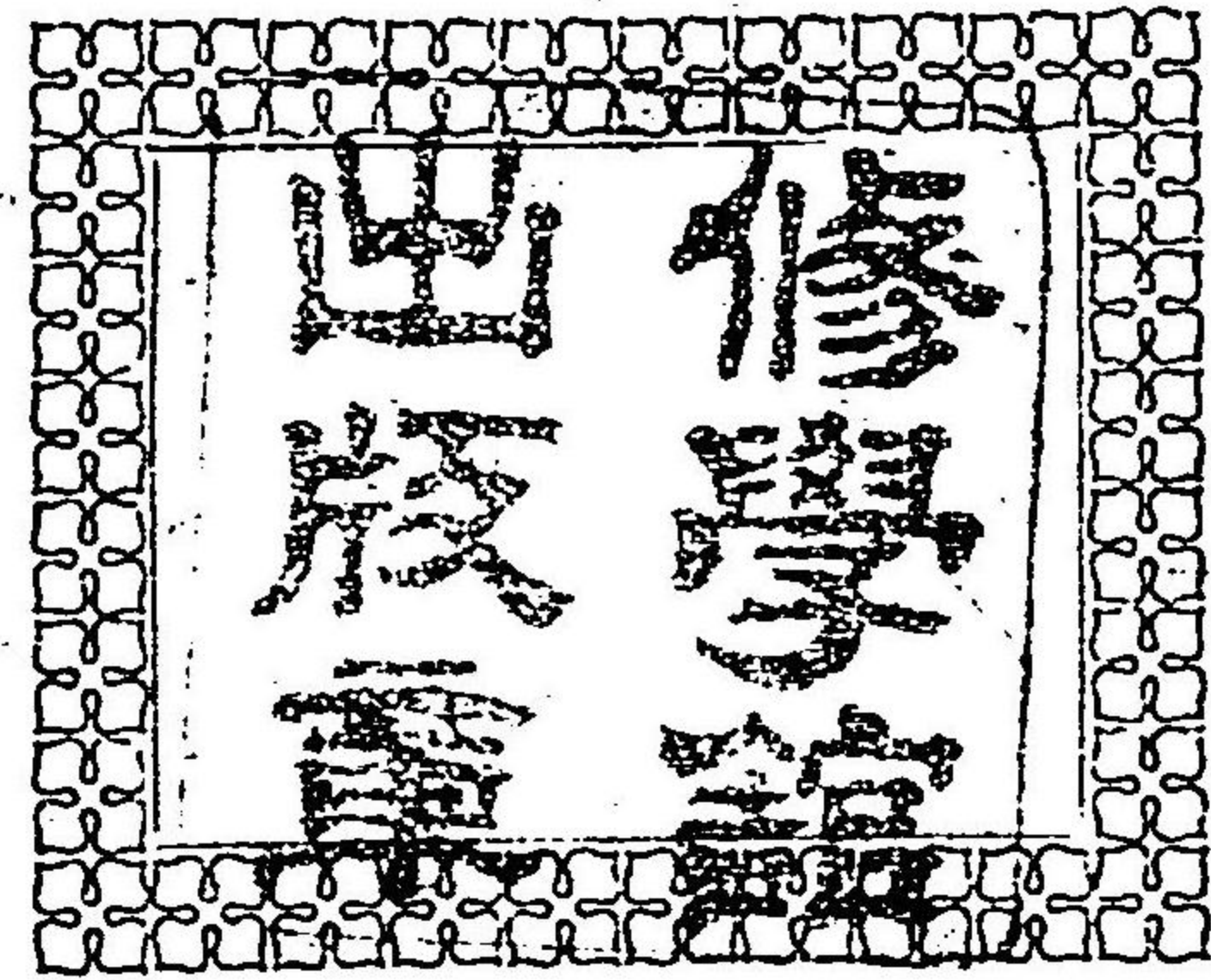
第四十五條 此規定ニ掲ケサル事項ハ慣例ニ據ル

會社事務案内 終

30
51

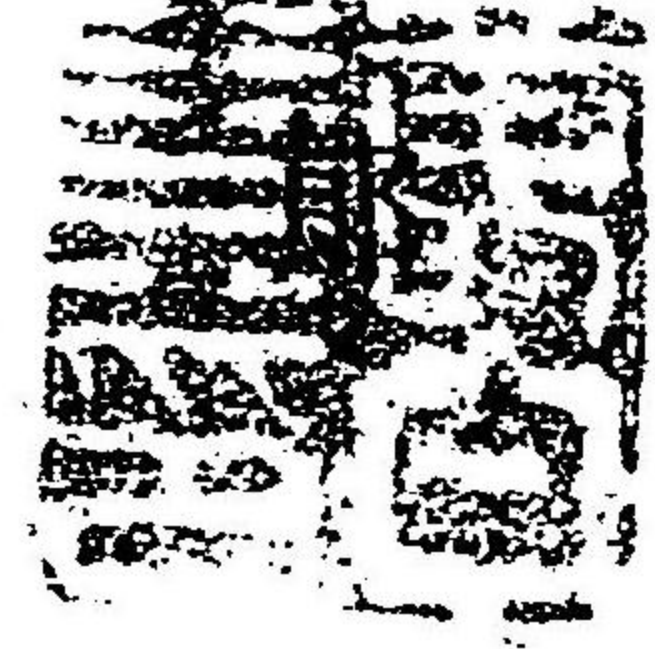
明治三十一年六月七日印刷
全
發行日十月六年

發行所

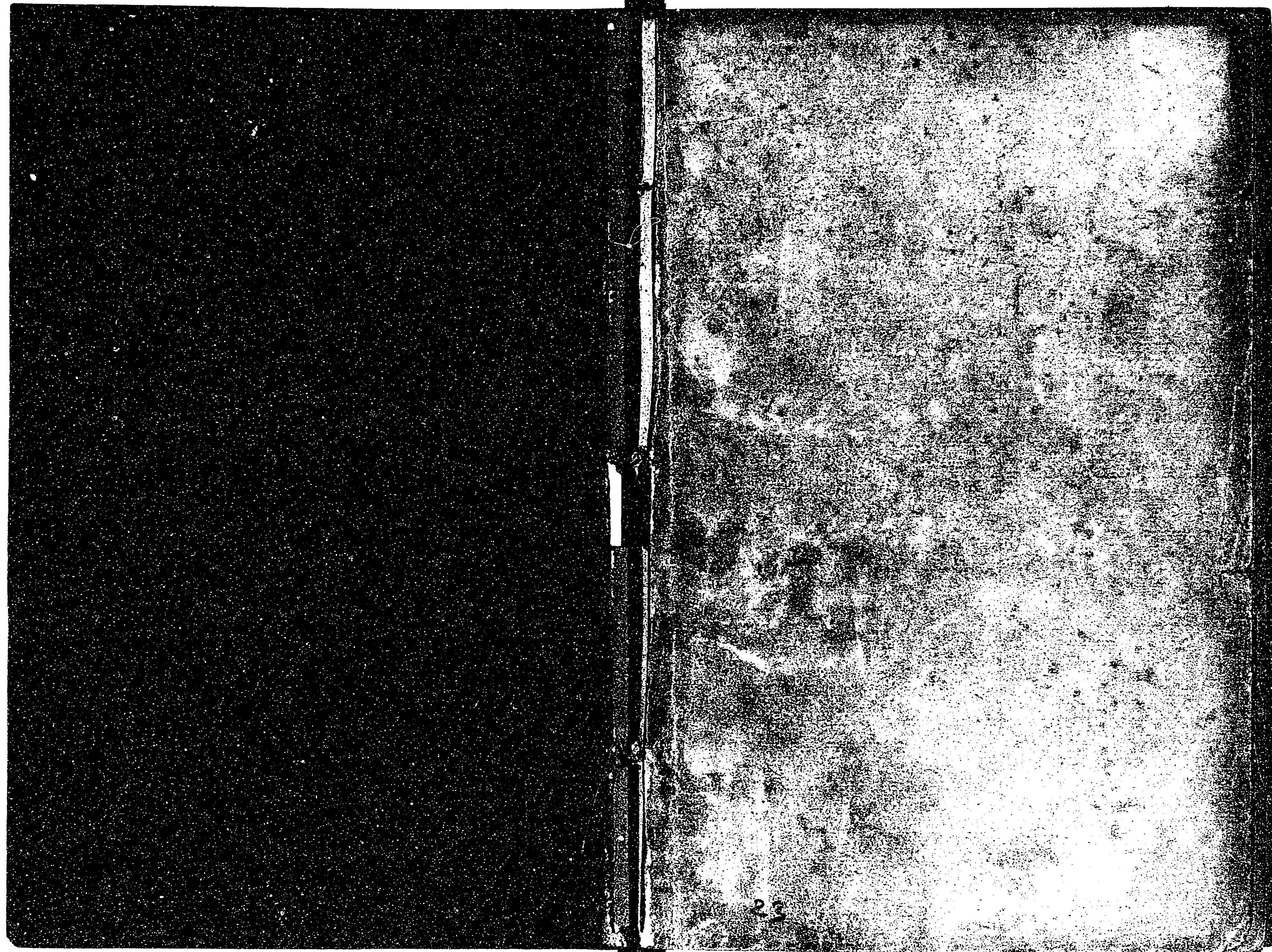


神田表神保町	全	全	大賣捌所	著
	文	服	大倉書	者
修	海	部	書	春日昇一
學	堂	書	末	神田區表神保町七番地
堂	店	店	吉	發行兼 印刷人

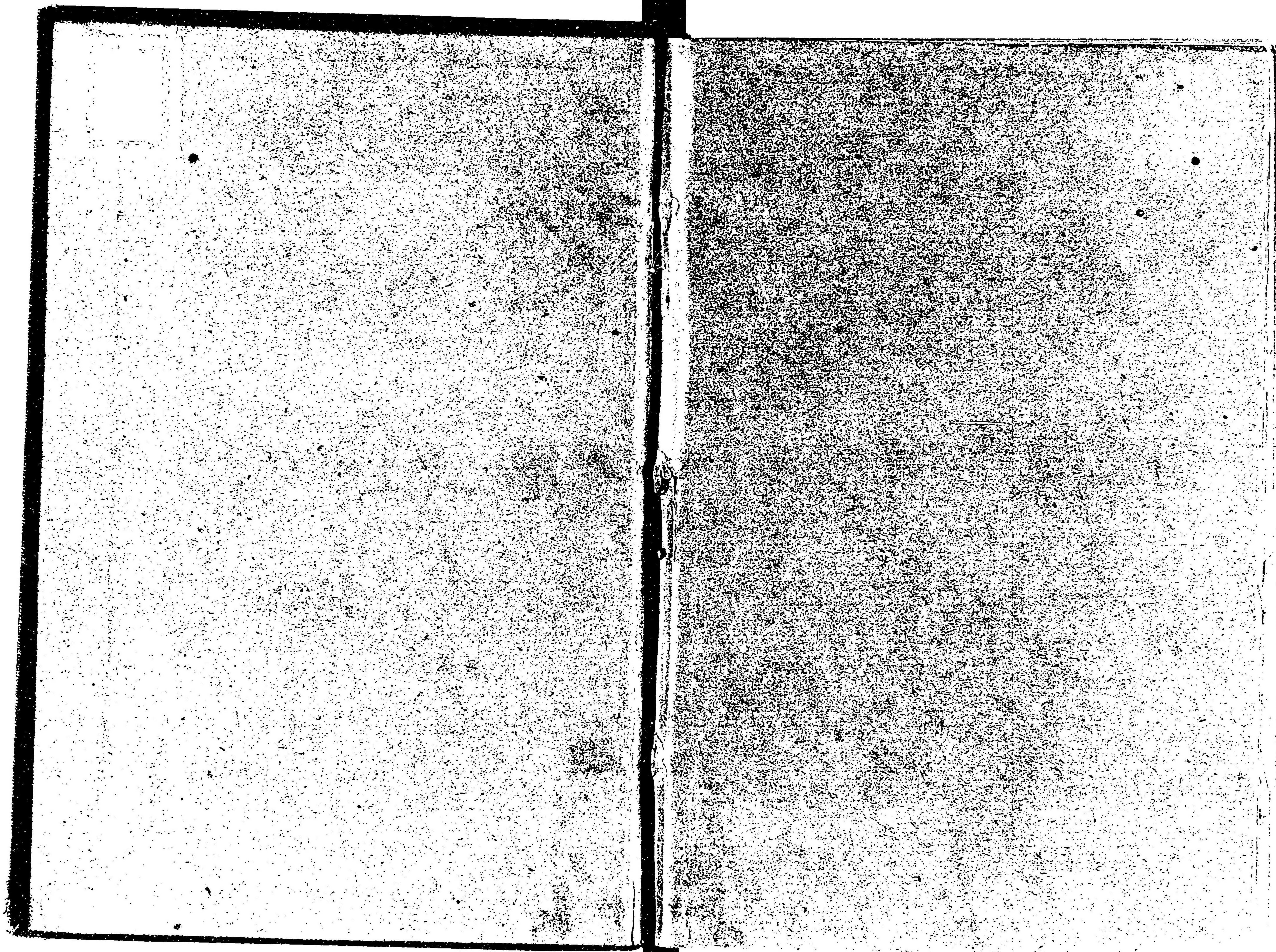
正價金參拾五錢

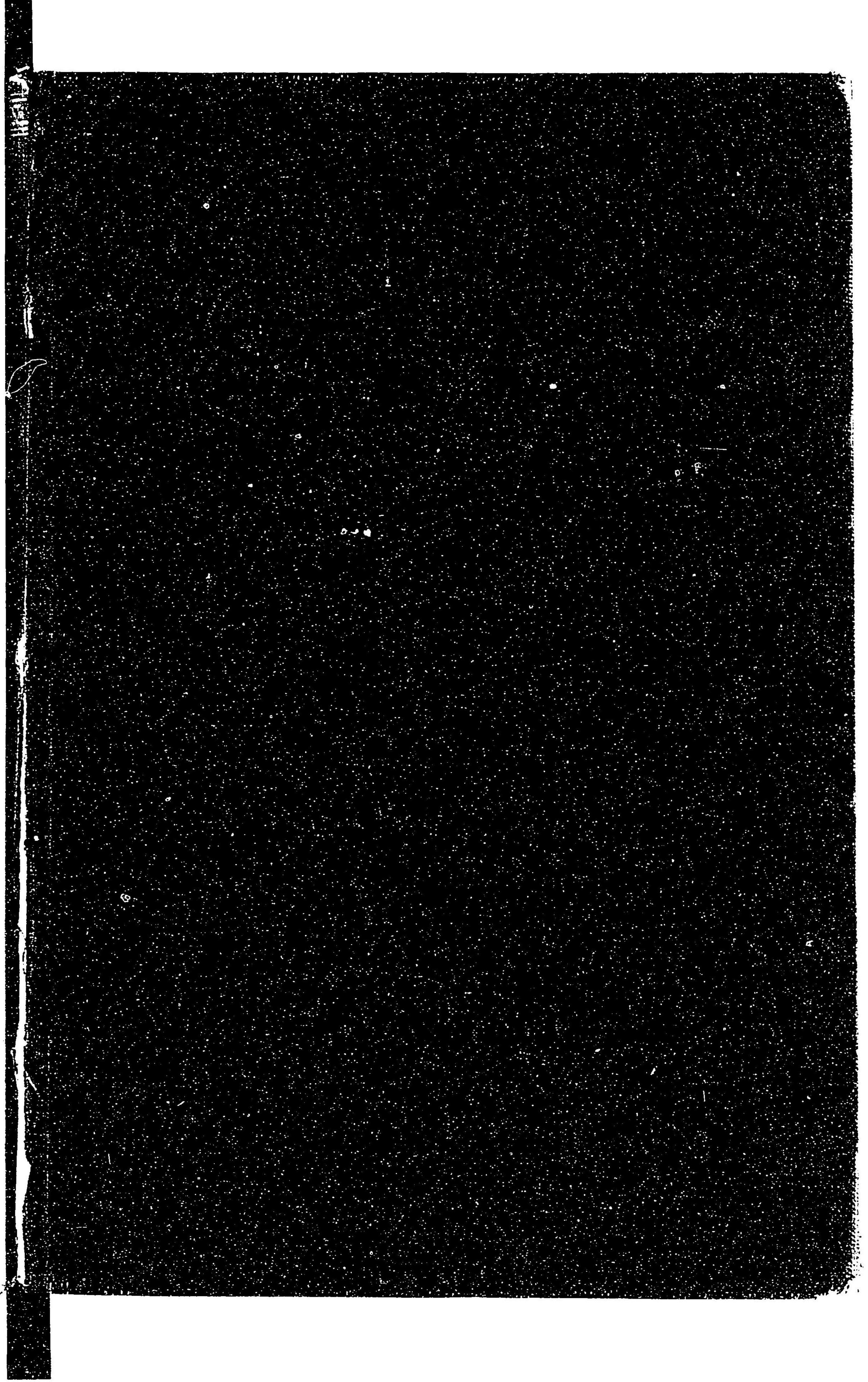


80
54



23





043154-000-4

80-54

会社事務案内

春日 昇一郎/著

M31

BDL-0074



